

博士課程修了までの流れ

段階1	行為者	備考
Proposal Review		<ul style="list-style-type: none"> ・学位を申請しようとする者は、研究計画の段階で、「課題研究構想ワークショップ(”Research Design Workshop”）」において、研究構想・計画について報告し、学位論文執筆を開始する水準にあると判断されなければならない。 ・2年次を終えるまでに実施することが望ましい。
	学生	<ul style="list-style-type: none"> ・Reviewの実施日時、審査委員の選出等の詳細の決定を、指導教員に依頼する。 ※周知期間確保のため、実施日はなるべく2週間後以降に設定。
	指導教員→大学院係	Reviewの実施日時、場所、審査委員名を大学院係に報告する。
	大学院係	Reviewの実施日時と場所を、HPで周知する。
	指導教員→大学院係	学位論文執筆を開始する水準にあるか否か(合格・不合格)、指導教員は、Review実施後2週間以内に所定様式により報告
	指導教員	Reviewが実施された旨、教育会議で報告

段階2	行為者	備考
Interim Review		<ul style="list-style-type: none"> ・Proposal Reviewにおいて、学位論文執筆を開始する水準にあると判定された者で、博士論文全体のドラフト(予備審査論文)を提出した者は、Interim Reviewに参加できる。 ・Interim Reviewは、Final Reviewの3ヶ月前までに開催する。
	学生→指導教員	<ul style="list-style-type: none"> ・上記Proposal Reviewにおいて、学位論文執筆を開始する水準にあると判定された学生は、博士論文全体のドラフト(以下、予備審査論文)を完成後、指導教員にInterim Reviewの実施について内諾をとり、「予備審査論文提出書」に署名をもらう。
	学生→大学院係	予備審査論文、指導教員署名済み「予備審査論文提出書」を提出。
	大学院係→指導教員	<ul style="list-style-type: none"> ・予備審査論文の提出があった旨報告。 ・Review実施時期、審査委員(案)の選出等を依頼。 ※周知期間確保のため、実施日は、なるべく2週間後以降に設定。
	指導教員→大学院係	Review実施日時、主査／審査委員(案)を決定のうえ、大学院係に報告。
	大学院係	Reviewの実施日時と場所(案)を、HPで周知する。
	審査委員会(主査)	教育会議にて、審査委員会の設置、審査委員の構成について説明、付議。
	大学院係	Reviewの実施日時と場所(確定版)情報を、HP上で更新する。
	主査→大学院係	Review実施後2週間以内に、所定様式により、判定結果を報告(合格、条件付き合格、不合格)。
	審査委員会(主査)	教育会議にて、審査結果の報告、付議。

段階3	行為者	内容
Final Review		Interim Reviewに合格した者は、学位論文を提出できる。
	学生→大学院係	論文題目届(指導教員署名あり)、学位申請論文、論文の内容の要旨等、所定書類一式を提出
	大学院係→指導教員	・学位申請論文等の提出があった旨報告。 ・Reviewの実施時期、審査委員(案)の選出等を依頼。 ※周知期間確保のため、実施日は、できれば2週間後以降に設定。
	指導教員→大学院係	Reviewの実施日時、主査／審査委員(案)を決定のうえ、大学院係に報告。
	大学院係	Reviewの実施日時と場所(案)を、教員と学生に周知する。
	審査委員会(主査)	教育会議にて、審査委員会の設置、審査委員の構成について説明、付議。
	大学院係	Reviewの実施日時と場所(確定版)情報を、HP上で更新する。
	主査→大学院係	Review実施後、指示された期限までに、所定様式により、判定結果を報告(合格、不合格 ※ただし、若干の語句修正は認める)
	審査委員会(主査)	論文審査、最終試験を終了したときは、直ちに論文の内容の要旨、論文審査の結果の要旨、最終試験の結果の要旨に、学位を授与できるか否かの意見を添え、教育会議に文書で報告しなければならない。